



米国大学図書館へのオープンアクセス支援に 関する聞き取り調査について



明治大学 中野教育研究支援事務室 西脇亜由子





- 米国ペンシルベニア州の3大学:ペンシルベニア州立大学(PSU)、ピッツバーグ大学(Pitt)、カーネギーメロン大学(CMU)
- 2025年3月17日～21日
- 各大学の概要(各大学サイトより)

PSU:訪問先は中央図書館(Pattee and Paterno Library)、24キャンパス
学生数87,995・教職員数36,935(Fall2024)
図書館員数530(うち専任235) (FY2023)

Pitt:訪問先は中央図書館(Hillman Library・リノベーション中)、5キャンパス
学生数34,079・教職員数16,000(Fall2024)、図書館員数163

CMU:訪問先はHunt Library(中央図書館・メインキャンパス)
学生数16,335・教員数1,586(Nov. 2024)、図書館員数86



- オープンアクセスやオープンサイエンスに関する支援やその体制
- 図書館とそれ以外の学内関連他部署(研究部門など)との関係
- 研究支援以外にも行っているOPEN関連の取り組み



□ リポジトリへの登録方法

教員データベースシステムと連携した登録のほか、研究者自身または代行者(院生など)、図書館による登録を行う。(PSU)

個人・学部・研究室単位などでの登録が可能。DOI発行機能もある。登録数を増加させるためにも登録自動化ツールを検討中。(CMU)

□ 収載コンテンツ

学術論文・学位論文・研究データ(データセット)

デジタルプロジェクト作品・学部生の卒業制作コンテンツなど(CMU)

□ 広報・アウトリーチ

リポジトリ担当者が論文DBなどで投稿状況を確認し研究者に登録依頼を行う。ワークショップなどの開催。



- データキュレーションライブラリアン、研究データ(サービス)ライブラリアンがメタデータ作成や研究データ管理を支援している。
- データの組織化(メタデータ作成)、DMPツールを利用した計画作成支援、バージョン管理、データのクリーニング、分析、データの質の評価など、研究のライフサイクル全体にわたり支援を行う。
- 研究データ管理に関するワークショップなどを開催。
- データキュレーションに関する国内ネットワークなどでも情報共有を行っている。



- 各大学とも転換契約を行っている。上限付きの契約の場合もあるが、ほとんど上限に達していない。コンソーシアムによる契約の場合もある。著者は負担ゼロという大学もある。
- APCファンドは2大学が以前は実施していたが中止した。金額・件数など公平性や購読費との二重払い、予算の限界、管理業務負担などの理由から。
- APCファンド実施大学はハイブリッド誌は対象外、フルOA誌のみ。
- 投稿誌が助成対象か確認できるツールを提供。(CMU)
- 即時OAのためのCCライセンスを推進。



- 電子ジャーナル出版プラットフォーム(投稿・査読・公開までオンライン実施可能)を提供しオープン出版を支援。大学予算や寄付金、基金や学会等の資金によるダイヤモンドOAの場合もあれば、一定の費用負担がある場合も。
- 図書館出版サービス担当が出版に関するワークショップを開催。
- 大学出版による刊行図書などのオープン化も。(PSU)



- 各大学とも、学術研究支援の一環としてオープン活動に取り組んでおり、OA・オープンサイエンス支援は図書館が中心に進めている。
- ただ、学術研究支援であるため、研究部門や研究所・研究者など学内他部門・他部署との連携を重視している。図書館の学内での役割・立場や従来実施してきたサービスによるところもある。
- 研究データ管理は図書館以外の複数部門(学部・研究部署など)でも実施しており、学内での連携や情報共有を行っている。データの保存に関してはデータセンターなどとも連携を図ろうとしている。



□ オープンソースのソフトウェアの管理・収集・共有

オープンソースプログラムオフィス(図書館)。広報活動なども。(CMU)

□ 著作権に関する支援

法律の専門知識を持ったライブラリアンがオープンアクセスや出版における著作権などに関する相談対応やワークショップを開催。(PSU)

著作権に関する情報源などのガイドやToolkitのページの作成。

□ デジタルコレクション・アーカイブ

地図や貴重書などの特別コレクションや学内で希望が出たコンテンツのデジタル化や州規模のデジタル化プロジェクトとして州発行新聞アーカイブなどを構築。(PSU)

□ AI使用に関する支援

AIツールやAIに関する情報源・ガイドの作成や研究でのAI使用に関するワークショップ・ディスカッションの開催などを準備中。(CMU)



- オープン教育支援(OER:Open Educational Resources)
- 教科書や教育用コンテンツをオンラインで公開し利用できるようにするもの。教科書の高騰化やオープンコースウェアの動きが背景にある。教員・学生との連携も行う。教科書出版社ともライセンスなどに関して協議。
- OERのリポジトリの提供、教材作成ガイドやオープンソースツールなどの提供、インセンティブや評価など(OERに関する助成・積極的な教員の表彰など)も。
- デジタル機器・機材・スタジオの提供(3Dプリンタ・スキャナ・カッター、AR・VRなどを含む撮影・編集機材、AI関連ツールなど)。
「Open Lab」として図書館内に設置し教育支援などの連携を強化。(Pitt)



- オープンアクセス・オープン学術研究支援において図書館は主要な役割を担う(従来の役割の延長)が、学内の連携は不可欠。学外(図書館など)のネットワークも重要。
- グリーンOAの取り組みが中心だが、多様な立場・意見がある。
- 研究のライフサイクルに沿った研究支援、研究のプロセスに即した多様な支援を行っている。



- 組織・人員(組織再編や人員削減などへの対応)
- 予算・経済的持続可能性や大学の方針(グリーン>ゴールド?)
- 公平性・公正性・バランス(分野や世代など)
- 学内(研究者・他部署など)のコミュニケーション・連携